



産経新聞の長期連載「企業の志魂（こころ）」（橋 三郎著）で、当社が「自由な発想と感性／光ケーブルの技術集団」と紹介されました

全文は以下です。

---

（坂本龍馬）が数多の幕末に活躍した俊秀の中でも際立っていたのは、「日本」や「日本人」という意識を強くもっていた点だ。いくら崩壊寸前とはいえ、260年も続いた幕藩体制の中、桂小五郎の頭の中にあるのは長州藩であり、西郷吉之助の考えの中心も薩摩藩であった。なのに龍馬一人が土佐藩ではなく日本を考えていた。薩長同盟という橋渡しを実現できたのも、その自由な発想と感性ゆえである。

TEPCO光ネットワークエンジニアリング(株)（取締役社長・加藤 高昭氏）は、通信ケーブル建設工事・保守及び「auひかり」の円滑・効率的なサポートを実施している光ケーブルのスペシャリスト集団。東京電力とKDDIを出資母体とする生まれながらにしてのエクセレント・カンパニーだが、社員一人ひとりには自主独立と進取の気概をもって、ケーブルネットワークの安定稼働を支える責任感と技術の研鑽に余念がない。まして社員の大半は、光ケーブルに関して高いスキルを備えた技術集団であるという点が、同社の最大の強みであり真骨頂とも言えよう。これまで電力会社で培ってきた保守ノウハウや設備構築力を生かして、安全かつ効率的な保守・建設を推進。まさに薩長同盟が新しい日本を創る起爆剤となったように、東京電力とKDDI双方の”橋”として、手を携える同社の存在は「電力インフラを活用した通信ケーブルネットワーク」の先覚となっている。関東に拠点を擁し、地域密着の信頼密度も濃い。